

研究No.
(記載不要)

平成 23 年度配分 研究成果の概要

研究名	地域経済の国際化に向けて -静岡県対中国ビジネスの拠点、浙江省のマクロ経済環境に関する研究-				
特別研究費 配分額	文化政策学部長特別研究費 650 千円				
特別研究費 執行額	650 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策 学部	国際文化 学科	講師	兪 嶸	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要 ① 国際文化学科テキスト「国際文化学への招待」に「コラム・県内企業の中国進出——グローバル時代の企業の挑戦」原稿提出済み) ② 静岡文化芸術大学研究紀要 (予定)			号 数	① 2012 年度中 発行予定 ② 第 13 号 (2013 年 3 月発行予定)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法:			発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日

注:配分を受けた翌年度の 7 月末までに提出

研究No. (記載不要)	23—文学—7
-----------------	---------

平成 23 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	地域経済の国際化に向けて -静岡県の対中国ビジネスの拠点、浙江省のマクロ経済環境に関する研究-				
配分を受けた 特別研究費	学部長 特別研究費 650 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	文化政策 学部	国際文化 学科	講師	兪 嶸	他 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 (頁～ 頁) (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法: 「静岡県内企業の中国進出 ーグローバル時代の企業の挑戦」 『国際文化学への第一歩』に掲載			発表日	平成 24 年 3 月 25 日

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

日本企業にとって、経済成長を続ける中国は単なる「工場」から、有望な「市場」へと大きく変貌している。これまで中国との間に築いた製造ネットワークを深化させていくとともに、中国市場開拓のためのビジネス戦略の構築が不可欠である。そのなかで、対中ビジネスの展開はより総合的、かつ詳細な情報が必要である。

本研究は、県内企業に適切な情報提供を強く意識しており、県内企業の海外進出を取り巻く国際環境の変化を概観するうえで、静岡県に対中ビジネスの拠点とも言うべき、浙江省に焦点を当て、浙江省のマクロ経済環境とその変化を市、県レベルまで捉える。浙江省はここ十年来、10%前後のGDP成長率を保持しており、一人当たりGDPにおいても、常に中国のトップクラスに名を連ねている。市場としての将来性は極めて大きいと言える。静岡県は1982年に浙江省と友好関係を結んだ以来、すでに多くの県内企業が浙江省への進出を果たしている。今後浙江省は静岡県の対中国ビジネスの拠点として、更なる役割を果たすと期待できる。

本研究を通して、県内企業の対中国ビジネス戦略のための中・長期的な指針を提示できることを目的とする。

(研究の実施方法等)

本研究は、まず最新の文献とデータを通して、県内企業の海外進出を取り巻く国際経済環境の変化を概観する。それから、浙江省のマクロ経済環境とその変化を捉えるため、以下の点について分析を行う。

- ① 所得構造と消費構造の特徴と変動
- ② 産業構造の特徴および各種産業の地域分布状況
- ③ ソフトインフラとハードインフラの整備状況

本研究は3年間にわたり実施する。1年目は主に最新の文献とデータの収集を行い、分析の基本フレームワークを確立した。浙江省での実地調査は、浙江省経済の中心地である杭州市と寧波市を重点とし、浙江省統計局、浙江省中小企業管理局などに協力を求めた。更に浙江省マクロ経済の問題点について、浙江大学産業経済研究所などの中国研究機関の研究者と広く意見交換を行い、有意義なアドバイスをいただいた。

(得られた成果等)

本研究は3年間にわたり実施する。初年度は、文献研究とデータ分析を行い、「静岡県内企業の中国進出——グローバル時代の企業の挑戦」をテーマに、研究結果をまとめた。主に巨視的に静岡県企業を取り巻く国際経済環境の変化に着目し、「市場」としての中国の重要性を分析した。研究成果は『国際文化学への第一歩』（静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科編・すずさわ書店・）に掲載。

また、浙江省マクロ経済の問題点について、中国の研究機関の研究者と広く意見交換を行い、有意義なアドバイスをいただいた。翌年度以降の研究に大きく寄与すると思われる。